

青葉台町会協議会まちづくりの歩み



千葉県市原市 青葉台町会協議会 顧問兼39PJ事務局長

田中 功夫

あしたの日本を創る協会では、令和5年1月に「自治会町内会講座」を開催しました。2団体からの事例発表の内容を紹介します。

(文責・事務局)

青葉台団地と先人たちの基礎づくり

千葉県市原市の青葉台団地は、京葉工業地帯とともに誕生し、今では市内で最も高齢化が進む団地の一つである。青葉台町会協議会は9町会の連合町会で、3230世帯、人口9200人である。

先人たちはこの30年間はまず、生涯学習塾の創設、乳幼児や児童たちへの支援、高齢者福祉等に力を入れてきた、地域交流の場である青葉台さわやかネットワークもその一つで、2014年に認定NPO法人に認証された。基礎は今までの土壌の中で醸成されてきた。

39 (サンキュー) プロジェクト

しかしながら、先人たちの業績の上にあぐらをかいていた我々に衝撃的なきっかけがあった。2018年冬に市主催の、人口流出・空き家対応シンポに参加したことである。青葉台でもこのまま放置をしていたら、単一町会2町会分の700世帯分が空き家になると

言うことであつた。

他にも問題があるならば出して課題化しようということになり、全世帯3230世帯、小、中、高校、ボランティアグループからアンケートをとった。その結果を分野ごとに整理して、6分野28課題にまで落とし込んだ。それを公募した39名のワークショップ参加メンバーで議論した。

さらに深掘りをしようということになり、市地域連携推進室のアドバイスで、青葉台内の方との対話の場5回、青葉台外(神奈川県や埼玉県など)の方とのワークショップ5回で議論をした。

次に39 (サンキュー) プロジェクト名の由来は、青葉台の家族・先人・地域に対するサンキューの気持ちと、ワークショップのメンバー数の単なる語呂合わせである。

39プロジェクトのビジョンは「新しい価値を創造し続ける街」。「続ける」というところに意味合いがある。2019年にビジョンを設定し現在に至っている。

現在は6分野に分けた14課題をワークショップで議論している。フレイル予防改善実証実験、地区交通政策の企画・運営の検討、ゾーン30プラス、の3課題は、2022年から取り組み始めた課題である。それまでは11課題だったが現在14課題を14チームで取り組んでいる。

39PJの課題取り組み状況と担当 (2022.10)

No	分野	課題	担当
1	高齢になっても永く住み続けられる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物・外出困難な方対応方策検討 ●福祉タウン構想でモニタリング実施 ●フレイル予防改善実証実験 ●地区交通政策の企画・運営の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●小域福祉NW ●ASN
2	災害や犯罪に強い街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●地区防災計画の策定 ●ゾーン30プラス 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災委員会 ●同サポートチーム
3	美しい街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●基幹道路の「ohana いっぱい活動」の展開 ●空家・空地の有効活用「空家・空地管理センター」の設置活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民自主チーム ●空家空地有効活用チーム
4	子育てのしやすい街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●子供を気軽に安心して預けられる場所づくり アンケート準備⇒青小PTAへ説明 	<ul style="list-style-type: none"> ●ACN ●子供ミライ会議
5	活気のある街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの統廃合・活性化 ●青葉台盆踊りの活性化 ●商店街の活性化(空き店舗活用) 青葉ノアールの再建と用途の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントチーム ●盆踊りサポートチーム ●商店街活性化
6	10年後も20年後も価値が棄損されず住み続けられる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会機能の減退防止(町会毎の対応宣言と実行) ●HP・アプリの開発&試行実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり委員会 ●広報委員会

中学校や高校でも各5回のワークショップを行った。空き家をどうやったなら楽しい場に行けるだろうかという話もしてきた。

2021年6月には、青葉台小学校で39プロジェクト成果発表会を行った(青葉台には、小、中学校各1校、隣接して県立高校1校が

ある)。また青葉台の楽曲がなく、公募した11曲を中・高校の吹奏楽部の生徒による審査の結果、1位の曲が「青葉台音頭」に決まった。踊りの振り付けも行い、お披露目も行って、現在は盆踊り曲になっている。

ほかにも共に学び合い、憩うことができる場を作るため、県立高校の生徒と一緒に地元の特産のイチジクを活用した、新しい商品を開発し販売しようと「青葉ノアール」というカフェを作った。改造・改装は高齢者の方々のボランティア作業で行い、2021年11月23日に開店祝賀会を行った。また、青葉ノアールのクラウドファンディングを目標30万円で行うこととなり、見事達成した。現在では青葉台の憩いの場として、上級生が下級生の勉強の面倒をみたり、本を読んだり、勉強を教えたりし合う場、高齢者の通いの場のようになっており、老若男女が集っている。

内閣総理大臣賞受賞後の動き

青葉台町会協議会の連合9町会のなかに4つの常任委員会がある。その中のまちづくり委員会直轄に39PJを組み込み課題も紐づけた。さらに若者との交流では青葉ノアールのシャッターに、県立高校美術部が絵を描いてくれたり、青山学院大学の学生たちが5月の連休中に児童との遊び・学びの活動をして

くれた。お陰で多くの親子が来場してくれた。

このようなボランティアの方にはボランティア参加証明書を発行し、ボランティアに参加してくれたことで、進学・就職活動に良い影響があるように感謝を込めて贈呈している。紙1枚だが大変喜ばれている。また高齢者の方たちのために電動カートの試乗会を行い、185名の方が来場し、125名の方が試乗された。これも今までにない大きな反響であった。

また、市と一体となった空き家管理センターの説明会や、フレイル予防・改善実践事業では17名の方が4カ月に渡る活動に協力して頂いたことは特筆すべきことで、青葉台HPにも掲載・広報した。

「美しい街づくり」の一つであるOhana(＝家族・信頼)いっぱい活動については、住民一人ひとりが参加する活動をし、お花を育てる楽しみを公共から自宅へということ、次のステップとして自宅への展開を考えている。「ゾーン30プラス」については、青葉台全体で制限速度30キロの道がある。

小・中・高校生・3200世帯からヒヤリハットを募集し、660件が提供された。次に親子や安全パトロール隊の方たちと一緒に、現地を歩き、通学路等で本当にヒヤリハットしてきたことを防ぐために、設備・標示不備箇所を摘出し最終的に13箇所に絞

て、警察署と市道路管理者に提出した。警察署も市も実地現実に見て予算措置をとってくれている。

またスタッフのユニフォームを作ったが、これは県立高校美術部がデザインしてくれたもので、中原市の鳥(うぐいす)、木(いちよ)、花(コスモス)が描かれている。ロゴマークは自治会長が考案。名刺は、我々でウェーブ(波)を起こそうということで、波がデザインしてある。このように楽しみながらやっている。

これからのまちづくりと人材育成

令和4年9月には、山形県川西町の「きりよしじまネットワーク」に視察研修に伺った。ここで学んだことは「攻めの自治会」ということで、経営的な発想でないと今後はだめだということを学んだ。

本自治会はこれまで、祭りやいろいろなことを行ってきた。「内閣総理大臣賞受賞1周年記念青葉台フェスタ」では、前半をセレモニー、後半は高校生の大道芸やビンゴ大会、北海道物産展(胆振東部の大地震の復興支援事業)などで大いに盛り上がった。

我々の取り組みは今後も継続していかねければならない。それには、現在は協議会の活動自体の住民への認知度がまだまだ浸透して

いないと感じている。一過性の祭り等への参加だけの人は多い。一方で地道な活動や町会活動への参画意欲の減退を感じている。これは高齢化や働き方改革の陰で、町会役員のなり手がない、退会者が増えている等の大きな課題にもつながっている。今後は住民にきめ細かな説明を行い、説得ではなく納得してもらうことが重要である。

後継者育成については、まず要の事務局を充実させなければいけないと考えている。当初事務局員は6名だったものが今では14名になった。これは各町会から選抜して人を出すような方策をとったからである。

現在、また波を起こすためにどんどん石を投げ入れている。町会改革では行政と太刀打ちできるくらいの知識・技能を持つ有償ボランティアの方々の「専門家集団」と本質的な仕事の方に特化した組織・機能にした「町会組織」に分離することも考えている。

また有償ボランティアを抱えるためには収益を上げなければならない。事業を行うためには「一般社団法人」化を行う必要がある。これも住民の皆さま方との会話の中で進めていきたい。

今日は成功事例しか話していないが、実は失敗事例の中にも何かヒントが隠れている場合が多い。そういうことを話せる場を設けていただければ、ぜひまた馳せ参じたい。